

## 平成23年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
1	キッズプログラム・プロジェクト事業	おおずスポーツクラブ	地域づくりを担う人材の育成を目的とし、スポーツを通じて子どもや地域住民の健康増進と地域の活性化を図るための事業 ⇒ キッズプログラム指導員料、HP作成費など	955,000	737,000	総実施数140回、参加園児260名に対しキッズプログラムを実施し、保護者や園関係者からも高い評価をいただいた。プログラムの満足度は100%で、90%近くの園児の心身状態の向上がみられる結果となり、事業の必要性や継続性を改めて感じることができた。交流大会は当初参加予定人数を下回ったものの、参加した園児・保護者、園関係者には大変満足していただいた。お祭り村でのブース総来店者数は200名となり、様々な器具を使って楽しみながら健康チェックを行い、定期的な運動への推進を図ることができた。	活動をより公共性をもった形で市民にアピールするため、平成24年3月末にNPO法人格を取得した。キッズプログラムは、市内のすべての幼稚園、保育所で実施を目指すとともに、小学生を対象にしたセカンドステップのプログラムを検討している。子供から高齢者まで、あらゆる世代がスポーツに親しみ、身体と心の健康を保持し、コミュニティ(仲間)づくりができる環境整備を目指したい。	
2	買物弱者対策支援事業	豊茂自治会	地域内の買い物弱者に対し生活用品等を配達し、安心安全な生活を支援するとともに、コミュニケーションづくりを行い、健康で豊かな地域づくりを図るための事業 ⇒ 配達用車両購入費など	997,000	997,000	買物弱者へ日用品や食料品等希望日配達を取り入れるなどの工夫により215回の利用があった。特に防災に関する生活必需品を希望する方が多いこともわかり、安全安心な生活へ繋げることができた。また、高齢者や障害者が歩いての来店もしばしばで、重い品物や悪天候時でも自宅まで届けることができた。整備により買物弱者へ安心安全な生活を支援でき、更に時間を共有することで明るい話題の提供とコミュニケーションが十分とれるとともに、思いやりの気持ちと明るい笑顔、みんなが安心して生活できる地域づくりができた。	地域唯一の商店であり、今後も地域住民で意見を出し合いながら継続を目指す。更に地域内へは広報等で店舗利用について協力を願い、利用者増加に努め安定した店舗の経営に取り組む。	
3	伝統芸能(獅子舞)復活事業	菅田獅子保存会	地域の文化財である獅子舞を復興させ、伝統芸能を保存伝承するとともに、世代間交流を図ることにより地域のコミュニケーションづくりを行うための事業 ⇒ 獅子頭や鳴り物の購入費など	1,263,000	1,263,000	復活を進め始めた当初は会員が15名程度であったが、若者同士の呼びかけにより、親子での加入などを得ることができ、最終的に会員数25名となった。指導者には、経験者など復活を望んでいた方々5名の協力により、秋祭りに披露できる形を整えることができた。復活を成し遂げたことで、会員はもとより地域の方も次世代に継承することの大切さを学んだ。また、今までは五つ鹿や御神輿のみが町内を練り歩いていたが、今回の獅子舞復活により、秋祭り全体が盛り上がり、以前の活気ある地域を甦らせることができた。	文化芸能を次世代に継承するために、定期的な練習や会員加入の呼びかけを行うとともに、あらゆる行事やイベントにも参加し、文化芸能の大切さや素晴らしさを伝えていきたいと考えている。	
4	菅田グルメまつり事業	肱川漁協菅田支部	肱川で獲れる食材を使った料理を通して、自然の恵みに感謝する心を養い、自然との共存を考えるとともに、地域の特色を活かしたイベントを通じて地域や郷土料理を広くPRし、地域の活性化を図るための事業 ⇒ 事業の拡大に伴う備品購入費など	441,000	435,000	あいにくの雨であったが、チラシ配布、新聞折込みやリピーターによる口コミの効果により、町内外はもとより市外からも含め、昨年以上の約1,300人もの来場者で賑わい、地域の活性化に繋がった。また、肱川で獲れた鮎やモズカニ、地元菅田で生産された里芋などを使いたいもたきなどを販売し、食して頂く事で、自然の恵みや地元食材の良さを改めて感じることができたと共に、地元生産者から食材を購入することで、地元へ活気とるおいを与え、地域の活性化に繋がった。	チラシの協議作成に時間を要してしまい1回しか実施できなかったため、次年度はより多くの方にしていただけるよう組みたい。催し物がマンネリ化とならないよう計画し、多くの集客に努めたい。そのため、次年度は撒餅を実施する予定で考えている。	
5	稲積花菖蒲園事業	稲積花菖蒲園	地域の資源である花菖蒲園を活かし、来客者の安全や利便性確保のための整備を行うとともに、地域内の他団体とも連携をとり、地域全体の取り組みとして観光の振興を図るための事業 ⇒ 安全確保のための園内通路整備費、案内板設置費など	1,545,000	1,545,000	菖蒲園開催中、雨にも係らず6,000人を超える来客数となった。園内通路をすることで、より安全に観賞していただくことができ、通路舗装も完成し車椅子で観賞することができる環境が整った。看板設置については、解りにくい所に3枚の看板を設置することができた。	不足が問題となっている駐車場の増設など引き続き整備を行っていきたく思っている。また、開催中のイベントとの責任者を確立して、来客接待、食品製作、販売等を担当していただき地区に少しでも多くの還元できればと思っている。	
6	Keep clean & keep green事業	河童会	清掃・除雪等ボランティア活動を拡大し、安全で快適な道路環境を実現することで、高齢者や障害者の生活を支援するとともに、観光施設美化等により観光客に地域の魅力を発信するための事業 ⇒ 除雪用ミニローダの購入費など	879,000	879,000	清掃活動4回、除雪1回の活動を行うことができ、事前の除雪希望調査では33世帯から申し出があった。道路やガードレール清掃、草刈りにより有効道路幅員の確保、ガードレールの視認性の向上が図られ、住民にとって安全で快適な道路環境を実現することができた。また河童会の活動を見て、地域住民の方も道路清掃などを行う方が数名出てきた。道路清掃活動とおして自己研鑽を行う事により、河童会メンバーが河辺町各所の道路清掃を必要とする場所などを意識して見るようになり河辺地域の抱える問題点や改善方法を自らが考えることで次代を支える人材の育成となった。	道路清掃については、山間部のため一度道路清掃を行っても数ヶ月後には再度行わないといけないのが現状である。今後についても少しずつ継続して活動を行っていきたく。除雪作業については、積雪量により活動の回数が増減するが、今後も継続して活動を行っていきたく。	
7	河辺天文台 自然教室事業	河童会	地域の特色を活かし、児童・生徒を対象とした天体観測教室を通じて自然への興味・関心、郷土愛を向上させるとともに、一般向けの天体観測イベントを開催することで、観光の振興を図るための事業 ⇒ 教室開催のための天体望遠鏡購入費、チラシ作成費など	714,000	698,000	全6回の天体観測教室を計画し、河辺市内の小・中学校から1回あたり30名程度の参加があった。全ての観測教室に参加した児童・生徒も多数おり、河辺町の魅力を発見、再認識させることができ、併せて自然環境についての理解を深める場を提供できた。また、雨天のため実施できなかった第4回のイベントについても、河辺町以外の大洲市各地から多数の参加申し込みがあり、中止の連絡時には『次回はいつ開催しますか』などの意見もいただき、少しずつながら河辺町における天体観測教室の認知度は広まっていると感じた。	引き続き天体観測教室を開催するとともに、観測教室をきっかけとして河辺町を知ってもらえるようなイベントを企画する。次年度は5月21日に皆既日食があるが、平日の午前中であるためイベント開催は困難であるが、皆既日食を観察するための方法などを河童会が主体となって告知したい。活動を知っていただくために開設したブログ( <a href="http://kappakai.seesaa.net/">http://kappakai.seesaa.net/</a> )も活用し、周知に努めていきたい。	



## 平成23年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
8	小学生スポーツ交流事業	菅田サッカースポーツ少年団	スポーツ活動をより充実させるための環境整備を行うとともに、新たなコミュニケーションシステムを作り子どもの健全育成と地域の活性化を図るための事業 ⇒ 安全な活動のための練習環境整備費など	435,000	435,000	大成・蔵川小の子どもたちとの交流を図るため、サッカー教室への参加を呼びかけたが、参加を得ることができなかった。しかし、市内の小学校からの参加により、計10回の開催で、延べ500人の参加を得ることができた。更に保護者が子どもたちと交り、サッカーを通じて、保護者や家族とのコミュニケーションを図ることができたことは、大きな効果があったものとする。また、延期となっている「サッカー大会」では、市内外から約30チームの参加を得て開催するため、食・観光等により、地域の活性化に貢献できるものと考えている。	サッカー教室で学んだノウハウを今後の活動に活かし、子どものスポーツを通じて、保護者や家族を巻き込み、更なるコミュニティの醸成に努めていきたい。また、地域間の交流をよりよいものにするためにも、菅田地域はもちろん大成・蔵川からの参加者が増えるよう、今後も周知に力を入れていきたい。	
9	肱南・肱北 がんばる市事業	大洲スタンプ協同組合	商店街が協働してイベントを行い、自助努力の必要性を再認識することで、地域が抱える課題を解消するための事業 ⇒ チラシの作成費、啓発用プロジェクト購入費など	1,748,000	1,748,000	ポスターに店を支える女性にカメラを向け、人と人の「絆」を表現した。多くのより身近な人や店の様子を被写体にした事がイベント成功への軌跡となり、個別に求める方が多かった。昨年蒔いた種は、今年確実に芽吹き、各商店街とのコラボは結束力を強くした。子供達もキッズダンスで日頃の練習の成果を披露し、そのがんばる姿にお年寄りたちは目を細め、涙ぐむ姿も見られた。これこそがイベントを立ち上げる原点であり、『次はいつやるんぜ?』のお客様の声も多く伺った。このイベントを機にそれぞれが自店の商売と商店街の今後の取り組みを見直すきっかけとなった。	昨年度、今年度と取組んで来た中で、会話と対話を重ね、継続して行く事が大切であるとの思いをさらに確信した。今後はこの効果を持続させるためにも、イベントや会話の場を絶やさぬようにしていきたい。中心街では、住民や店主の高齢化と後継者問題における街の空洞化が進んでいる。この現実を受け止め、おもてなしの心で取り組み、少しでも商店街の活性化に繋がる様に取組みを進めて行く。	
10	艶やかおはなはん通り～大洲着物ガールズコレクション～事業	オオズ☆ロケット団	地域の財産であるおはなはん通りと世界に誇れる着物文化を融合させた参加型のイベントを行うことで、市内外へ大洲の魅力を発信するとともに、伝統文化とレトロな町並みの保存伝承を行うための事業 ⇒ 会場設営費、運営費など	1,517,000	1,517,000	ショー1回の観覧者数は約300人で、参加者も含めると約800名以上の集客があり、当日のレンタル着付けも予定していた30名がすぐに埋まった。屋台では100食用意していたお店が開店から1時間以内に売り切れてしまうなど予想を上回る人出であった。市内の美容室からは横の繋がりができ喜びの声をいただいた。モデルは10代～20代、美容室やボランティア参加者は10代～70代と幅広く、世代を越えた繋がりができた。すべてのモデル参加者から「今後もあるなら絶対に参加したい」という感想もあった。着物来店特典を計画したことにより着物での来場者も多く、近辺のお店への立ち寄りや経済効果も得られた。報道もしていただいたことで大洲を充分アピールすることができた。	フォトコンテストは開催できなかったが、依頼していたカメラマンの写真を今後のイベントに有効利用していきたい。単発のものにするのではなく、今回取り組んだ「着物ご来店特典」の店を通年制のものとし、大洲市中に広げ、「大洲＝着物で歩く町」という特別感を提案していきたい。活動資金の確保が大きな課題であり、グッズの販売などを通じて引き続きイベント継続のために努力していきたい。	
11	オオズキャンドルナイト#3～桜舞う大洲城～事業	オオズ☆ロケット団	地域のシンボルである大洲城を活かし、キャンドルを使った演出、イベントを行うことで、訪問客に地域資源や地球環境についての理解を深めてもらうための事業 ⇒ 会場設営費、運営費など	823,000	823,000	イベント開催時には雨も上がり、5千人を超える来場があった。紙コップアートにも市内外26校から参加していただいたり、小学生や高校生、大学生も手伝いに参加してくれるなど前回より多くの繋がりができ、交流の幅が広がった。イベントの内容にも変化をつけたことで2日連続で来場した方も多数あり、両日ともに楽しんでいただけた。「こんなにすごいとは思わなかった。次回からは何かお手伝いさせてほしい」という言葉もいただき、自主的な参加者を募る当団体としては、大変効果があった。大洲城には2日間で400名以上の入場者があったとともに、松山や宇和島などからの来場もあり、大洲のシンボルとしての大洲城を充分にアピールできた。	補助金により開設したホームページも活用し、活動を支えるボランティアメンバーの募集なども積極的に行いたい。現状補助金なしにはこの規模では行えず、団体としての活動資金を増やす努力もしなければならない。団体自体の周知ももちろんだが、本来の目的を遂げるためには、この団体を維持し、イベントを続けていくことが重要である。市民の期待に応えられるよう、努力を重ねていきたい。	
12	大洲コロッケ普及事業	大洲コロッケプロジェクト委員会	大洲コロッケの普及活動を通じて、大洲のイメージアップを図るとともに、観光客の増加と地域の活性化を図るための事業 ⇒ イベント等での紹介に必要な備品(フライヤー、ショーケース)購入費、広告費など	2,000,000	2,000,000	10月に開催された大洲産業フェスタ2011(来場者約1万人)に出店し、準備していた大洲コロッケ500個(250食)が午前中で売り切れてしまうほどの売れ行きであった。また、同10月に宇和島市で開催された南予グルメ選手権2011(来場者約35,000人(2日間))においては、大洲高校経済調査部とのコラボが実現し、出店2日間(高校生とのコラボはうち1日)で約1,100食を売り上げ、最優秀賞は逃したものの、優秀賞を受賞し、県内にも大洲コロッケの名を広めることができた。その他の宣伝の方法として、大洲特産品事業開発実行委員会とコラボし、もぎたてテレビの出演やタウン情報まつやまへの広告掲載時に相乗りする形をとることによる相乗効果を得ることができた。	整備したのぼりやパネル、フライヤー、周知広告用として作成したストラップを今後も有効活用し、大洲コロッケの認知度を高め、取り扱っている各店舗はもちろんのこと、大洲市全体に経済効果が波及するような活動につながるよう、引き続き団体として努力していきたい。事業の継続していくための基礎はできたが、活動を発展させるために新たな商品の開発を行っていきたく考えている。大洲高校経済調査部とのコラボも実現したので、今後も引き続き協力して活動を盛り上げていきたい。	
13	農産物加工品開発事業	JA愛媛たいき女性部	地場産品を生かした地域ブランド商品を開発するとともに、地域への普及活動を行うことで地産地消の促進を図るための事業 ⇒ 商品開発や加工に必要な備品(オープン、ミキサー) 購入費など	1,382,000	1,382,000	3カ年計画の1年目であり、将来想定している事業効果までは達成できていないが、準備段階としては、計画以上の地元農産物を利用した加工品のレシピも完成し、評判も上々の加工品もあり来年度以降の成果が十分期待できる。米粉を利用したパン生地を基本に、食パン・菓子パン等地元農産物利用の試作品を製造し、基本的なレシピの作成ができた。また、女性部やJA職員の試食による意見交換や検討会を実施し、消費者ニーズに応えるべくアイデアを持ち寄り、自主研修会で新たな商品開発を進めている。	来年度からのたいき産直市「愛たい菜」での販売に向けて様々な許可の申請準備中であり、最終目的である地域ブランド商品開発による地産地消の促進を図る準備は着々と進んでいる。半永久的にJA愛媛たいき女性部が継続して事業を行っていききたい。	
合 計				14,699,000	14,459,000			